

独自のものづくりを追求していききたいです

ハイレベルな精密加工技術を強みとして

代表取締役 **中 偉起**
 大阪府出身。『中製作所』の創業者である父親の背中を見て育ち、幼少期から家業を手伝う。学業修了後、他所の製造会社に入り、先輩たちとの交流などを通じて数多くを学ぶ。以後、家業に入って自己研鑽に励む日々を過ごし、2004年に現職に就任。調和を重んじる経営方針で新規顧客も獲得し、確実に実績を築いてきた。現在は、海外市場も視野に入れるなど、新展開を模索中。

ならない。そこで、それから1年半半もの間、たとえ身銭を切っても、従業員たちの給料は減額することなく支払い、もちろんリストラも回避して、難局を凌ぐことができたのです。腕利きの職人を失うと、景気が好転した時にポテンシャルを十分に発揮できなくなるでしょう。そうならないためにも、組織規模を保持してきたのです。

村野 では、今は安心して舵を握っておられると？

中 比較的安定した業績で推移しています。安心はできません。今後についても懸念すべきことは少なくありませんし、厳しい状況に陥る可能性も充分にあります。ですから企業として存続していくために、どのような方向性を採るべきなのかを模索しているところなんです。その中で、国外進出も視野に入れています。

村野 海外進出はどちらに？

中 東南アジアを中心に、世界全体を見据えています。ただ、製造業に携わるものづくり企業として、国内産業の空洞化は避けなければいけない。そうすると、日本製品を海外に輸出するのが理想で、海外では製造が難しい精密加工という強みを生かしたものを進めていくことになるでしょう。加えて、当社は小回りを利かせて、いち早く製品を提供できる体制も万全です。打てば響くように対応できる企業を目指し、それをセールスポイントとして打ち出すことで、生き残りを図っていくと考えています。

村野 それこそが、日本のものづくりの神髄だと思います。

中 ありがとうございます。ただ、取引先の協力なしには実現できませんし、海外進出により周囲を不安にさせてしまうことはあってはならない。何事も皆様のご理解やご協力をいただけるよう、成功事例を参考にしながら慎重に進めていくつもりです。

村野 新たな挑戦を進める上でも、周囲との調和を大切にしていきたいかと。最後に、今後に向けての抱負を。

中 父が創業した『中製作所』として更なる歴史を築き、その名を後世に残していくためにも、今後は確実な事業展開を進めるつもりです。急成長を狙うのではなく、現状を維持しつつ新展開に相応しい方向性を見極め、その道を従業員たちと一丸となつて突き進んでいきたいと思っています。

磨き抜かれた熟練職人たちの技と
 長年かけて蓄積したノウハウで
 優れた精密機械部品を世に送り出す

精密加工品のトータルサプライヤーとして、ものづくりの現場に貢献してきた『中製作所』。充実した機械設備と卓越した技術により、優れた精密機械部品を数多く世に送り出してきたのだ。「大阪ものづくり優良企業賞」を受賞するなど、業界内外での評価も高い。抜群の経営センスで同社を牽引する中社長に、お話を伺った。

村野 ご創業されたのは、いつですか。

中 1980年に、父が創業しました。当初は、小さな家内工業という形態で、私も幼いころから家業を手伝い、中学生になると自ら機械を操作してものづくりに携わっていました。そのころには「ゆくゆくは家業を継ぐ」という意識も芽生えており、自ら志望して工業高校に進学。学業を修了すると、「すぐに家業に入るのではなく、今のうちに他の世界も見ておくべきだ」と考え、他社でお世話になることに。当社とは取扱品目が違ったものの、他所の社風に触れ、先輩には仕事のみならず、様々な価値観を教わることで、非常に貴重な経験が積めましたね。

村野 その後、家業に入られたのですか。

中 ええ。以来、旋盤などを使用した切削加工により、シャフトなどといった精密機械部品を製作してきました。当社は精密加工品のトータルサプライヤーとして取引先のあらゆるニーズにお応えしてきており、取扱う製品をすべて合わせると2000種類ほどにもなるのですよ。

村野 それは凄い！ 代替わりされたのはいつですか。

中 04年です。父が急逝したために代替わりしたのですが、私がまだ27歳の時。プレッシャーは大きかったですね。その上で何より大切にしてきたのが、当社と関わりのある人たちとの「調和」です。父の代から懇意にしてくださっている取引先など、これまで当社がお世話になった周囲の人たちとの調和なくして、経営を続けるのは難しいでしょう。お陰様で、新規のお客様をご紹介いただくこともあり、私の代でお付き合いが始まった取引先もいらっしゃるので、

村野 一方で、当社を守り立ててくれた職人たちとの調和も大切にしています。現在は技能継承のために若手を育成してくれていますし、当社にとってなくてはならない存在だと言えますね。常に周囲への感謝の気持ち忘れず、正直にお付き合いを続けていく姿勢が変わりはありません。

村野 ただ、社長よりも業界経験の長いベテランの方もいらつしゃれば、現場を動かす上で難しいこともあるのでは？

中 しつかり心を通わせていけば、特に心配することはありません。相手が年上であろうと年下であろうと敬意は払っているのです。ただ、遠慮はしません。当社のように誰もが真摯に現場に臨んでいけば、場合によっては互いに意見を激しくぶつけ合うこともある。そんな時でも真っ直ぐ前を向いて相対することが大事で、そうしてこそ、互いを深く理解することができるようになります。

村野 とても良好な職場環境が築かれているのですか。

中 それ以外に、仕事に嫌気がささないよう、一人ひとりの適性を生かし、やり甲斐を持つて働けるよう配慮をすることも、経営者の役目。家族同然のように接し、従業員たちの心の底まで汲み取ってあげることが非常に重要ですね。

村野 これまでで、最も苦勞されたエピソードはありますか。

中 代替わりに際して、組織変革を推し進めた時ですね。自らが思い描く理想と現実のギャップが大きく、その溝を埋めるのは相当な苦勞を必要としました。また、最近ではリーマンショックですね。煽りは大きく、経営状態は極めて厳しかったですね。それでも経営者の務めとして、従業員、そして彼らの家族は何としても守らなければ

中社長と心を通わせながら『中製作所』を盛り立てている
 精鋭たちを交えて、記念撮影



大阪ものづくり優良企業賞 2009 受賞
有限会社 中製作所
 大阪府八尾市太田新町6丁目140番地
 【第2工場】大阪府八尾市太田新町6丁目139番地
 TEL 072-948-0103 FAX 072-949-8739
 URL : http://www.naka-seisakusho.co.jp

●ものづくり企業として歩むべき道とは――

▼製造業のみならず、国内産業すべてが岐路に立たされていると言っても過言ではない日本。特に「東日本大震災」以降は、あらゆる業界において数多くの難題が課せられており、既存の方法論では現状維持すら困難だと言えよう。そういった現状を『中製作所』の中社長も痛感しており、厳しい時代を生き抜く策として、海外進出も視野に入れているのだとか。

▼ただ、国内産業が空洞化につながるような海外展開を進めれば、ものづくり企業としての存在意義は失せると、社長。そのため、国内への確かな製品供給という基本を堅持しながら、グローバル経済の中でも通用する展開を進めるといふのだ。ものづくり企業として如何なる道を歩むべきか――日々、その自問自答する社長の前には、真の道が拓けていくに違いない。

ゲストインタビュー
村野 武範

「逆境の最中でも、冷静に的確な判断を下してこられた中社長。時流を見極める洞察力と抜群の行動力も兼ね備えておられ、激動の時代であっても社長なら乗り越えられるだろうと確信しました。持ち前の経営手腕を振るって、新たな歴史を築いていってください！」

